

^{90}Sr 量はそれぞれ 250kCi と 200kCi である (第3図)。これから1969年の ^{90}Sr 降下量は前年の約80%が期待される。この値は日本の6地点の ^{90}Sr 降下量から推定される0.84の値と一致する (第3節)。

5. ^{90}Sr の北半球全体と日本への降下量

第6表に日本における ^{90}Sr 降下量 (f : 単位 mCi/km²) と北半球全体への降下量 (F : 単位 MCi) との比をしめした。これは1960年~1968年の9年間の平均値を標準偏差とともにしめた。すなわち北半球全体における1MCiの ^{90}Sr 降下量は、秋田の 11.9 mCi/km², 大阪の 4.8mCi/km² の ^{90}Sr 降下量に対応する。

本研究に種々御討論、助言を与えられた気象研究所地球化学研究部の方々、又降水試料の採取に御尽力頂いた東京、札幌、仙台、大阪、福岡の各管区気象台、秋田、水戸の各地方気象台の観測課、技術課の方々に厚く感謝する。

引用文献

- 1) Feely, H.W., H. Seitz, R.J. Lagomarsino, P. E. Biscaye (1966) Transport and fallout of stratospheric radioactive debris. *Tellus* **18**, 316-328.
- 2) 葛城幸雄 (1965) 日本における Cs-137 および Sr-90 降下について

i 天気, **12**, 323-328

II " " 377-384

- 3) 葛城幸雄 (1969) 大気化学: 人工放射性物質・化学の領域, **23**, 380-389.
- 4) Krey, P.W., M. Kleinman, B. Krajewski Sr^{90} stratospheric inventories 1967-1968. USAEC reports HASL-210 1 45-75.
- 5) Miyake, Y., K. Saruhashi, Y. Katsuragi, T. Kanazawa, S. Tsunogai (1963) Deposition of Sr-90 and Cs-137 in Tokyo through the end of July 1963. *Pap. Met. Geophys.*, **14**, 58-65.
- 6) 三宅泰雄, 葛城幸雄, 金沢照子 (1964) 放射性降下物の現状と将来. *科学*, **34**, 142-148.
- 7) Telegadas, K., (1969) The seasonal stratospheric distribution of plutonium-238 and strontium-90, March through November 1967. USAEC reports HASL-204, 1, 2-16.
- 8) Volchok, H.L., (1969) Worldwide deposition of Sr^{90} through 1968 USAEC reports HASL-210, 1, 2-12.
- 9) Volchok, H.L., M.T. Kleinman (1969) Strontium 90 yield of the 1967 Chinese thermonuclear explosion. *J. Geophys. Res.* **74**, 1694-1695.
- 10) USAEC reports HASL-217, App. 1970.

第16期 第2回理事会議事録

日時 昭和45年10月27日 (火) 17:40~19:30
 場所 京都教育文化センター 南館1階8号室
 出席者 常任理事: 山本, 大田, 関口, 大井, 神山, 川村, 小平, 関原, 藤原, 岸保, 伊藤, 駒林
 理事: 孫野, 青木, 竹内, 中島, 山元, 沢田
 列席者 根本監事, 窪田長期計画委員長, 鈴木庶務員
 議題

1. 大気放射国際会議について
 気象学会が主催者となることを了承。
 準備委員会によって会議開催計画を進める。
 なお本件については来年春の総会において承認を求める。
2. 日本学術会議会員の選挙について
 立候補者を「天気」で公募し、それらを天気に掲載して選挙する方法をとる。

細部については常任理事会および選挙管理委員会に一任。

3. 大気物理研究所設立について
 本件は最新の諸情勢を勘案して既定方針とおり推進する。
4. 気象学長期計画について
 長期計画委員長より現在の進行状況報告があり、現況承認の後活発な論議がなされた。
5. その他
 大会の理事長挨拶の中に、大気放射国際会議、大気物理研究所設立経過、気象学長期計画現況と奨励金贈呈主旨等を含める。
 なお、坂田昌一氏に弔電を打ったことおよび長谷川万吉氏に山本義一外学会有志として香典と花輪を贈った旨報告があった。